

◎ 美術館情報

1. 愛知県陶磁美術館【愛知・瀬戸】 (<https://www.pref.aichi.jp/touji/exhibition/2025/special/chanokyoen/index.html>)

3月20日(金・祝)～5月17日(日)

企画展: 茶の饗宴 — 和洋茶器くらべ

本展は、日本の茶の湯・煎茶、そして西洋のティーカルチャーにおける茶器の美意識を比較展示します。茶の湯は、侘びの美意識に基づき、質素で研ぎ澄まされた美が特徴です。煎茶は、中国の文人が好んだ清らかで自由な美意識を背景に、古今の多彩な器を組み合わせる点が特徴です。一方、西洋のティーカルチャーは、17世紀末に定着し、19世紀のアフタヌーンティーへと発展した、同じ形・デザインで揃える美意識が特徴です。プラトンの『饗宴』にちなみ、これらの茶器の美意識が対話するように、それぞれの特徴や差異を紹介します。

2. 国立工芸館【石川・金沢】 (<https://www.momat.go.jp/craft-museum/exhibitions/568>)

3月20日(金・祝)～6月14日(日)

企画展: ルネ・ラリック展 — ガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術 —

ルネ・ラリック(1860-1945)はジュエリーとガラスのふたつの分野で活躍したフランスの工芸作家です。19世紀末から20世紀前半、ヨーロッパではアール・ヌーヴォー、次いでアール・デコと呼ばれた美術様式が流行しました。ラリックは優美な曲線に彩られたジュエリーに始まり、ガラスの透明感や色彩を生かした花瓶や香水瓶、カーマスコットなどこの時代を映し出した数多くの作品を発表しました。本展では国立工芸館に寄託された井内コレクションのラリック作品を中心に、ラリックに先駆けて活躍したエミール・ガレ(1846-1904)やドーム兄弟(オーギュスト:1853-1909 /アントナン:1864-1930)など、同時代の工芸・デザイン作品もあわせてご紹介いたします。ラリックのジュエリーやガラス作品とともに、ガレやドームの多彩なガラス、当時の家具やポスターなど、時代を彩った作品を一堂に会することで、華やかな時代の空気を感じていただけるでしょう。多彩なラリック作品と、フランスの装飾美術の世界をお楽しみください。

3. 大和文華館【奈良・奈良】 (https://www.kintetsu-g-hd.co.jp/culture/yamato/exhibition/asian_pottery.html)

2月20日(金)～4月5日(日)

企画展: アジアのやきもの

中国・ベトナム・朝鮮・日本といったアジアのやきものを展示します。釉薬などの技術革新が進んだ中国では、白磁、青磁、三彩、釉裏紅、五彩といったやきものが次々と生み出され、周辺諸国に影響を与えました。ベトナムのやきものは、南方らしい柔らかな表現などに特徴があります。朝鮮半島のやきものは、異なる色の土を埋め込む象嵌技法が多く用いられている点や五彩が発展しなかった点などに独自の好みが見られます。日本のやきものは、中国や朝鮮半島の技術の刺激を受けながらも、中世には素朴な焼締陶、桃山時代には大胆で伸びやかな茶陶が隆盛するなど、多様に展開しました。また、中国・ベトナム・朝鮮などのやきものを、独自の美意識をもって取り入れ、茶の湯の器として用いました。アジアのやきものの類似点や相違点に目を向け、各地のやきもの影響関係や、それぞれの特徴・美意識を詳らかにします。

